

新年に夢広げて

岩手の女性たち ①

幕を開けた2013年。県内で活躍する女性たちは、どんな夢や希望を新しい年に託すのだろうか。古里の復興支援や、女性起業家の応援活動、環境や健康に関する分かりやすい情報発信に取り組み3人に聞いた。

NPO法人「つどい」事務局長 元持 幸子さん (大槌町)

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた大槌町。元持幸子さん38は生まれ育った古里の再興を支えようとNPO法人「つどい」を2012年6月、町外に誘われるように有志者と立ち上げ、活動を続けている。

「みんなが集まれば、何か新しいものが生まれる」という期待を込めた。手作りの工芸品や農産物などを持ち寄り販売するお祭しみ市や、町内の団体同士の交流会を企画するなど、集いの場を積極的に提供している。

「震災で多くの人が亡くなり、住む所を失った

り、店も無くなった。生まれても自信を失った。その後も仙台と大槌を歩き来し、町内に開設された「健康サポートセンター」の運営に協力した。「町が変わるには時間がかかる。真剣に向き合いたい」と大槌に戻る決心をし、仙台の学校を昨年3月退職、つどいで活動を始めた。

高校卒業とともに地元を離れ、理学療法士の資格を取り、県外の病院で働いた。青年海外協力隊員として中米のコスタリカで2年間活動。「貧しくとも、家族のつながりや地域のコミュニティを大切に生きてきた人たちが、多かっただけで多かっただけで返る。」

11年3月の震災時は、仙台市の専門学校で理学療法の教員を務めていた。震災で生き残った人たちは支え合っていることに気付いた。「直している。震災で生き残った人たちは支え合っていることに気付いた」と見

人のつながりが生かす 一人一人が復興の主角

た。連絡の取れない古里としてきた。「一人のつながりが生かす」と後悔する。発生から5日後に帰った。医療支援や物資供給などのボランティア活動に4月

も「もち・まち」理学療法士として千葉、茨城などの病院で勤務。2007年、青年海外協力隊員としてコスタリカで活動。12年、NPO法人「つどい」事務局長。38歳。大槌町出身。



「新しい町のため、大槌の人たちが自信を持って動き出すきっかけをつくりたい」と意欲を語る元持幸子さん

(栗山 譲)